



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本の高齢者の ウェルビーイングに向けて
Author(s)	玉城, 英彦
Relation	「SW2010オープニング行事 北海道大学「持続可能な発展」国際シンポジウム：ひとり一人がすこやかに人間らしく生きる社会を目指して：わたしたちが直面する危機の原因を包括的に探る」分科会4：高齢社会の健康と介護：幸せとは？. 平成22年10月26日(火). 北海道大学学術交流会館, 札幌市.
Issue Date	2010-10-26
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/44365">https://hdl.handle.net/2115/44365</a>
Type	conference presentation
File Information	tamashiro.pdf



シンポジウム  
「高齢社会と健康と介護：  
幸せとは？」

日本の高齢者の  
ウェルビーイング  
に向けて



北海道大学大学院医学研究科  
予防医学講座  
国際保健医学分野

玉城 英彦

Sustainability Weeks 2010  
2010年10月26日

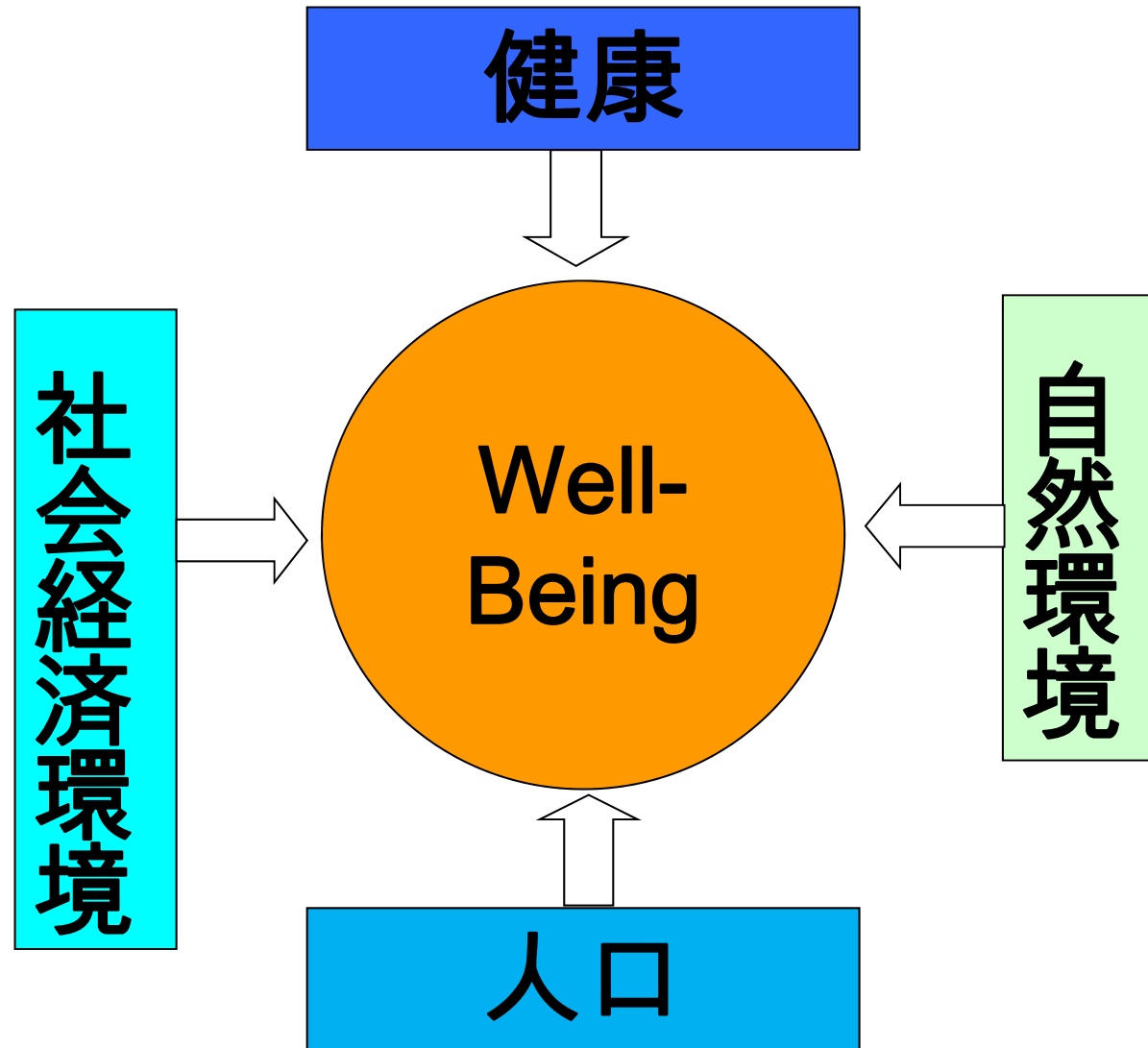


## 「私の母の死」

自分が生まれた島で、  
家の畳の上で、  
シマンチュの高齢者・  
孫らに囲まれて！

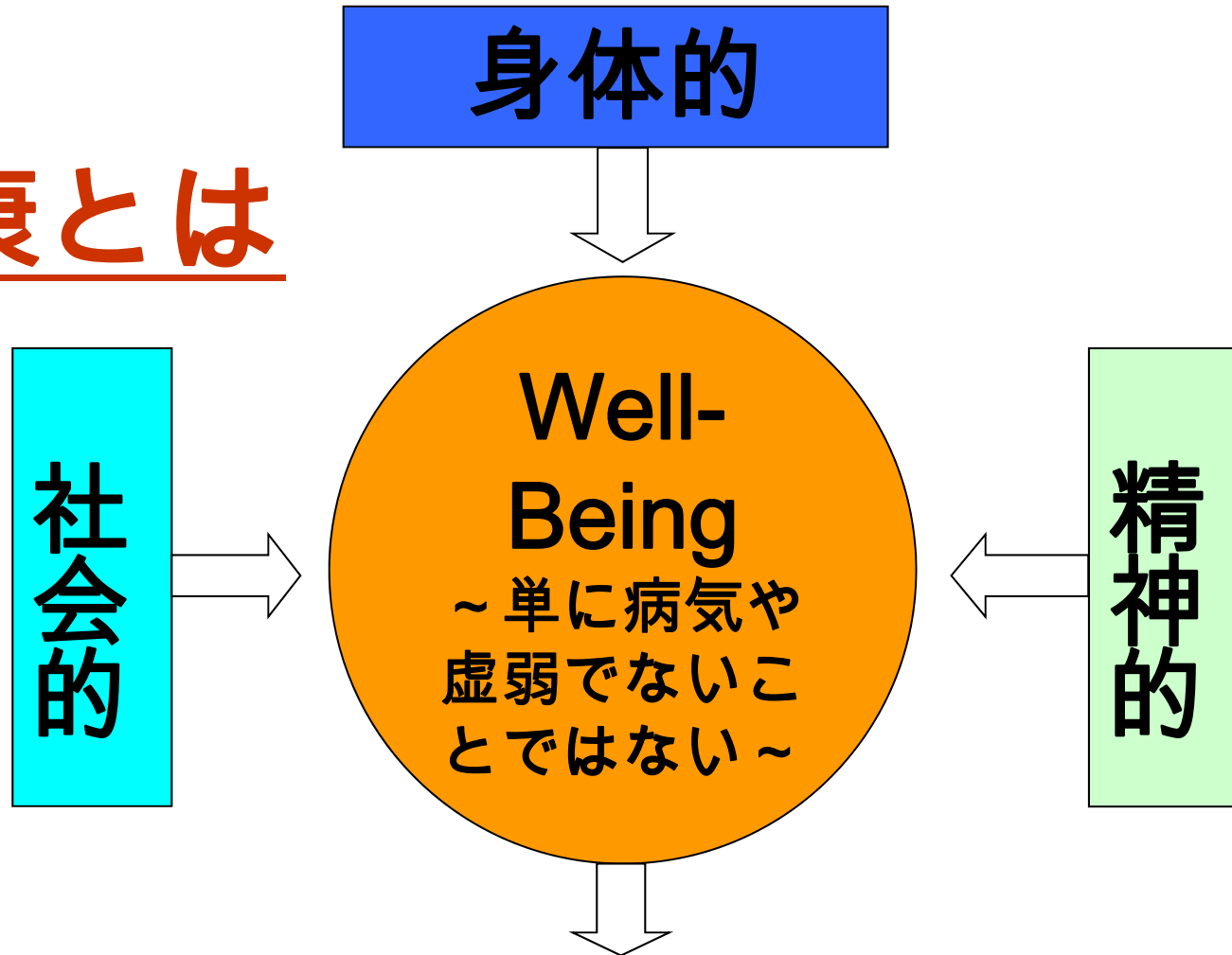


1人ひとりすこやかに人間らしく生きる社会を目指して



出典：SW2010

# 健康とは



## 健康権

The enjoyment of **the highest attainable standard of health is one of the fundamental rights** of every human being without distinction of race, religion, political belief, economic or social condition.

健康転換

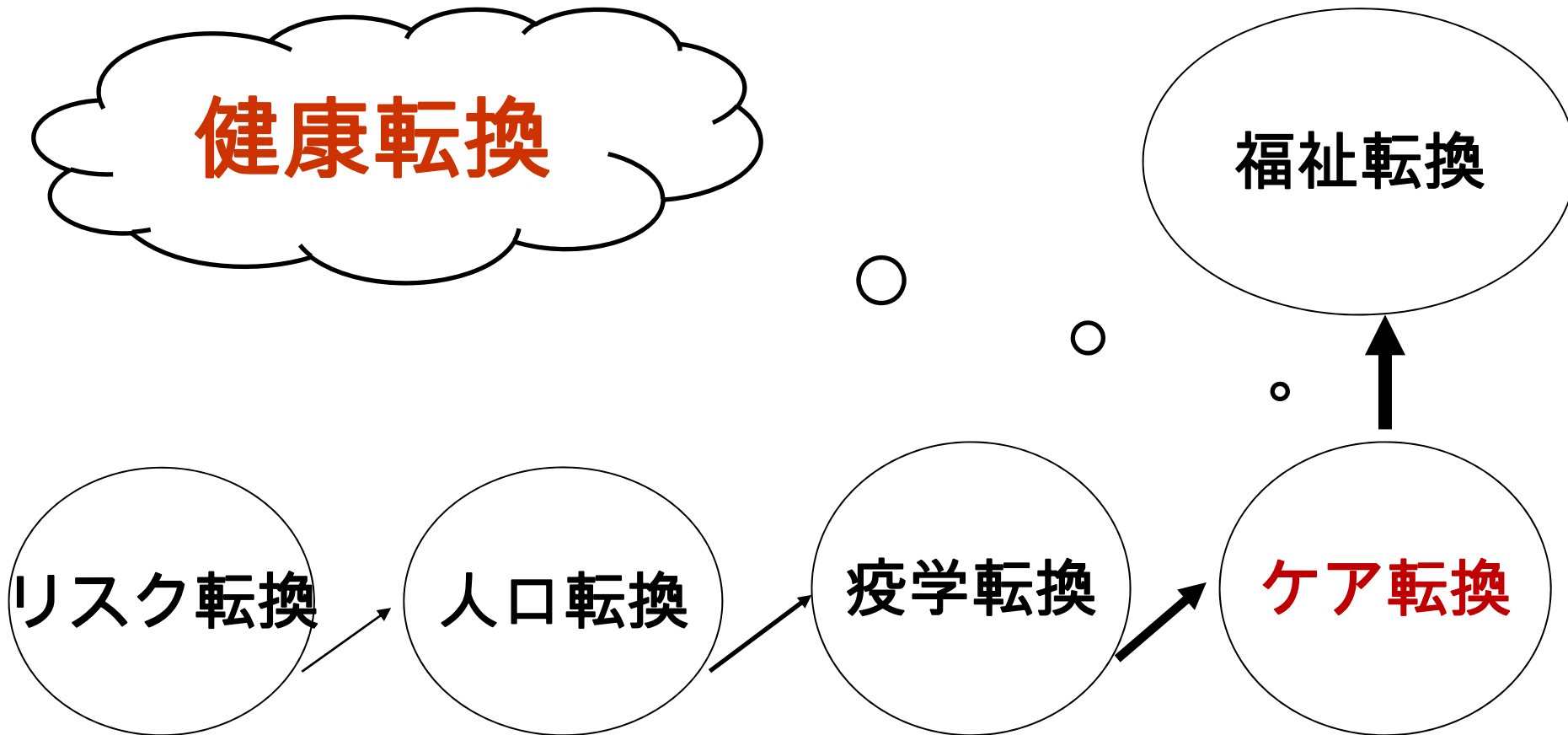
福祉転換

リスク転換

人口転換

疫学転換

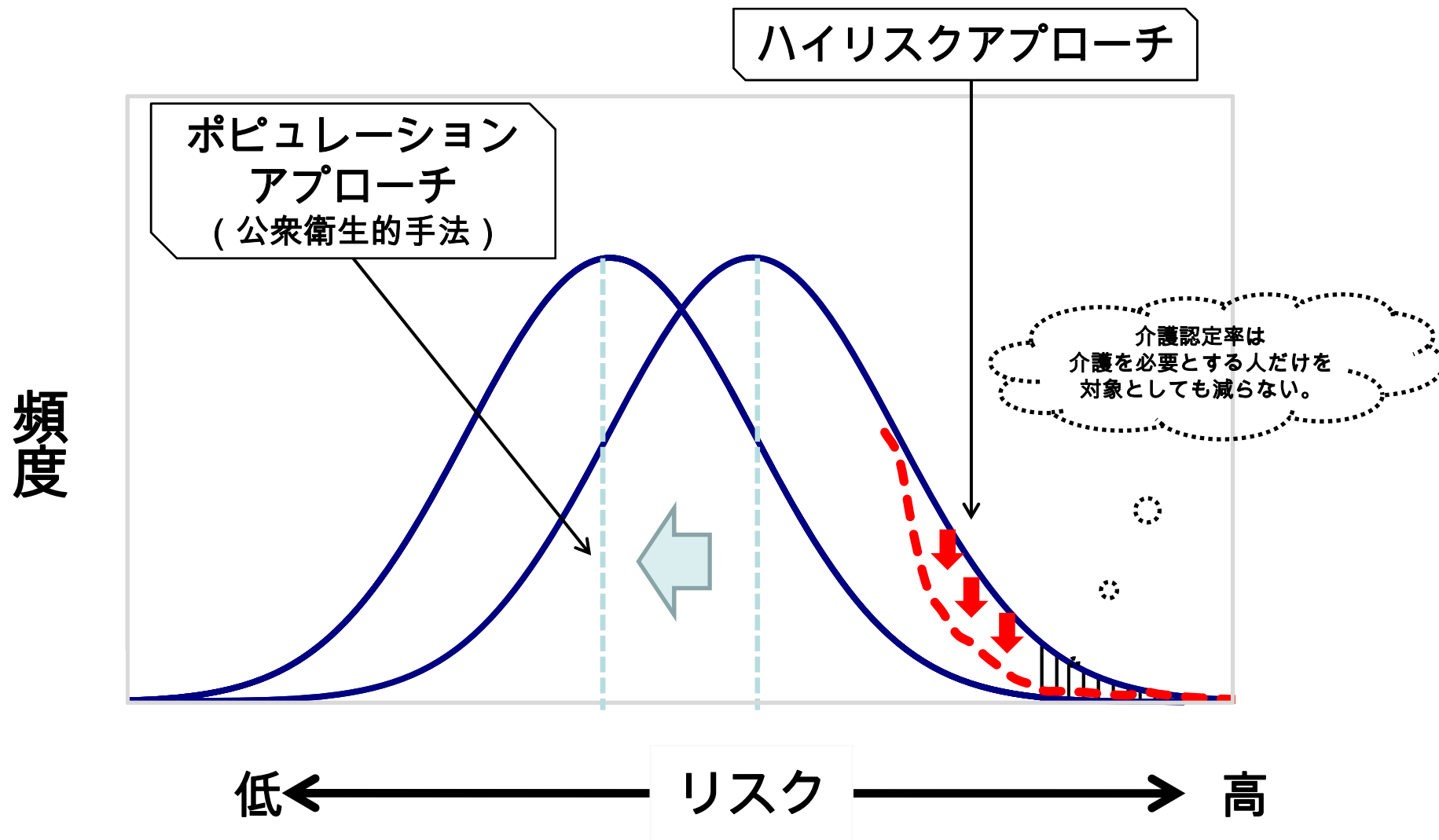
ケア転換



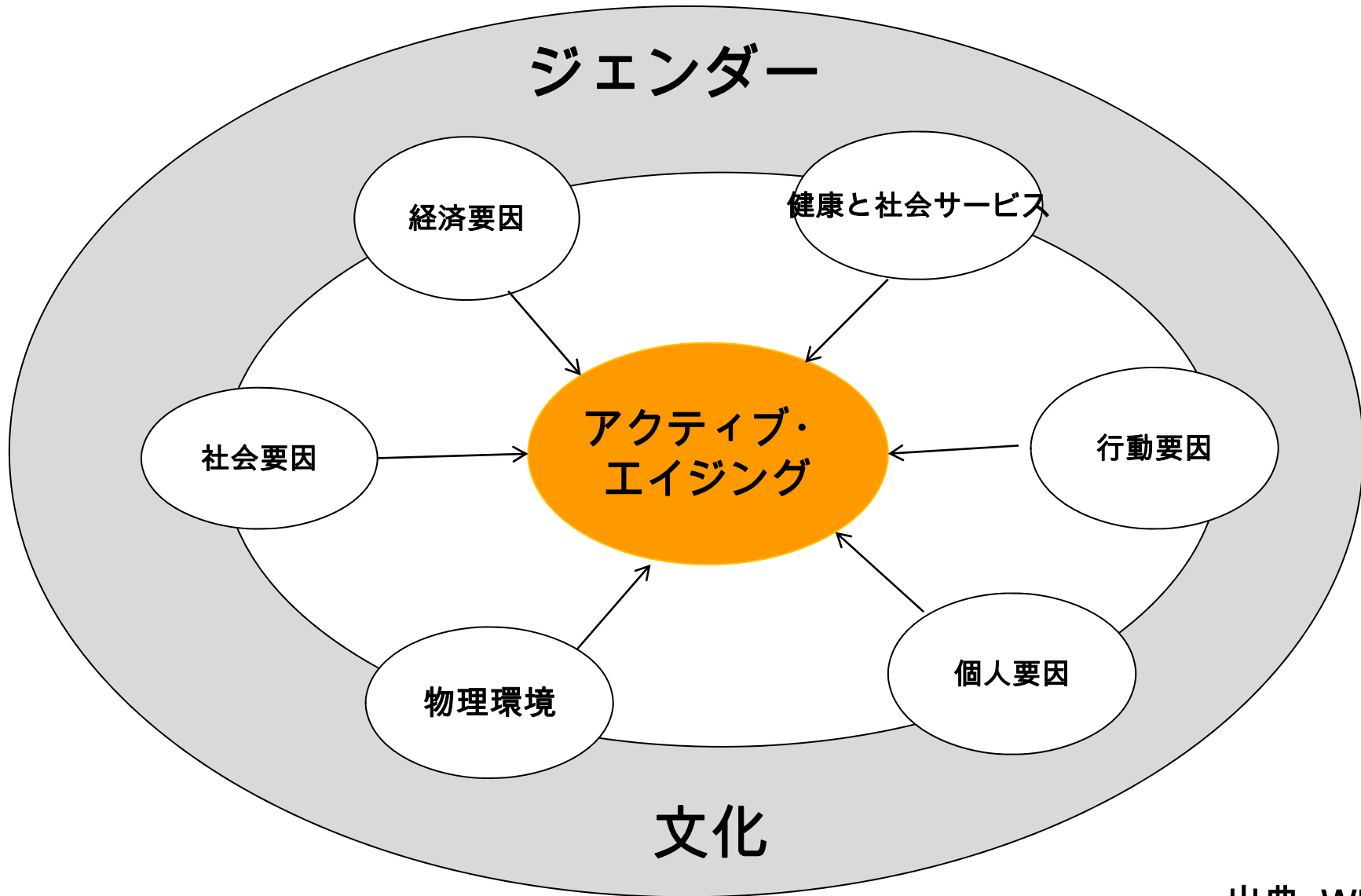
# ケア転換

- サービスの内部化
- サービスの外部化
- 住みなれた地域で、家で総合的な介護予防（地域を巻き込んだヘルス・プロモーション）

# ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ ~介護予防を例に~



# アクティブ・エイジングの規定要因



出典: WHO

# 高齢社会

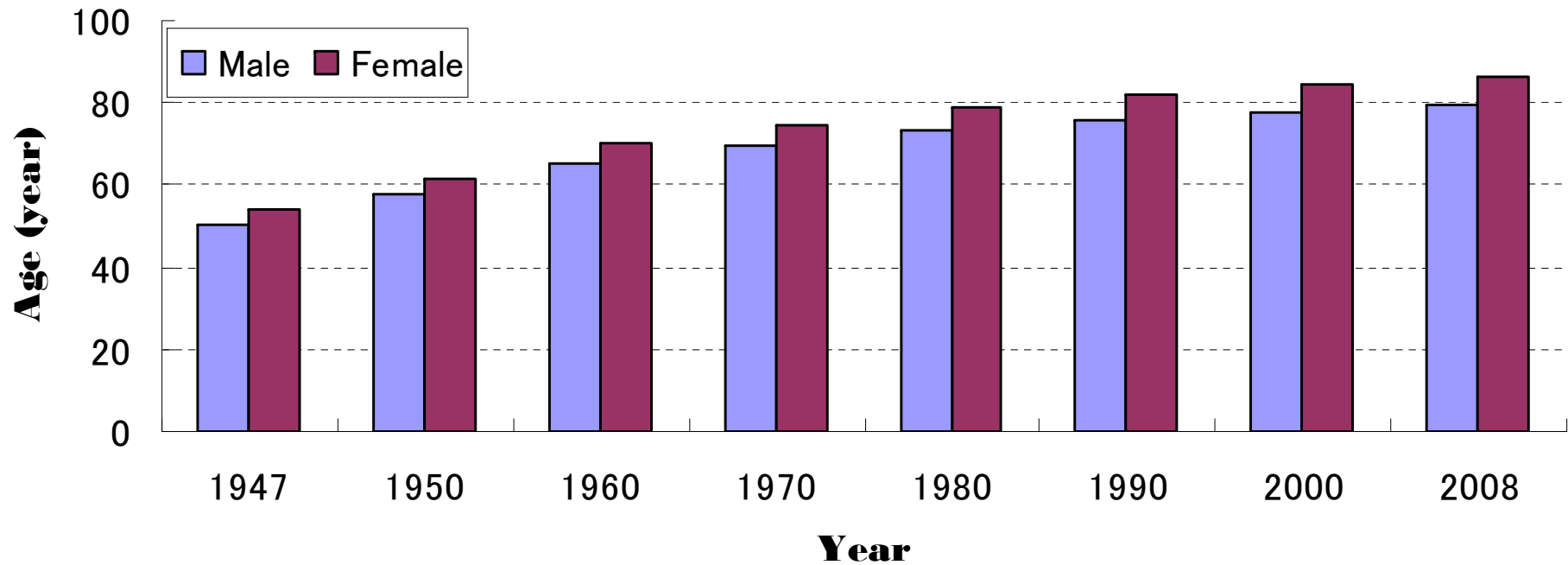
持続可能な人間開発の枠組みの中で

- 複雑性
- 長期的な展望

# わが国の高齢社会の特徴

1. 長寿（長い平均寿命）
2. 高齢者の全体数の増加
3. 高齢化のスピードの速さ
4. 平均寿命の男女間の差が大きい
5. 少子化

## Life expectancies by gender, Japan, 1947-2008



### Differences in LE by year and gender

Year/gender	1947	2008	Difference
<b>Male</b>	<b>50.06</b>	<b>79.29</b>	<b>29.23</b>
<b>Female</b>	<b>53.96</b>	<b>86.05</b>	<b>32.09</b>
<b>Difference</b>	<b>3.9</b>	<b>6.76</b>	

# 平均寿命, Japan, 2008

	Males		Females	
Age	LE	$\alpha$	LE	$\alpha$
0	79.29	0.00	86.05	0.00
20	59.75	0.46	66.45	0.40
40	40.49	1.20	46.89	0.84
65	18.60	4.31	23.64	2.59
80	8.49	9.20	11.43	5.38

LE at age  $x = \text{LE at birth} - \text{age} + \alpha$ ; e.g.,  $58.33 = 77.72 - 20 + \alpha$ .  
 $\alpha$  increases with age.

## Population change in international comparison

Country	Rate of population 65 or over		Number of years
	7%	14%	7%→14%
Korea	2000	2019	19
Japan	1970	1994	24
Germany	1932	1972	40
U.K.	1929	1976	47
Switzerland	1931	1982	51
Italy	1927	1988	61
Spain	1942	2013	71
France	1864	1979	115

## LE by gender, Japan, Italy, Switzerland, and USA, 2008

Country	Male	Female
Japan	79	86
Italy	79	84
Switzerland	80	84
USA	76	81

Source: WHO

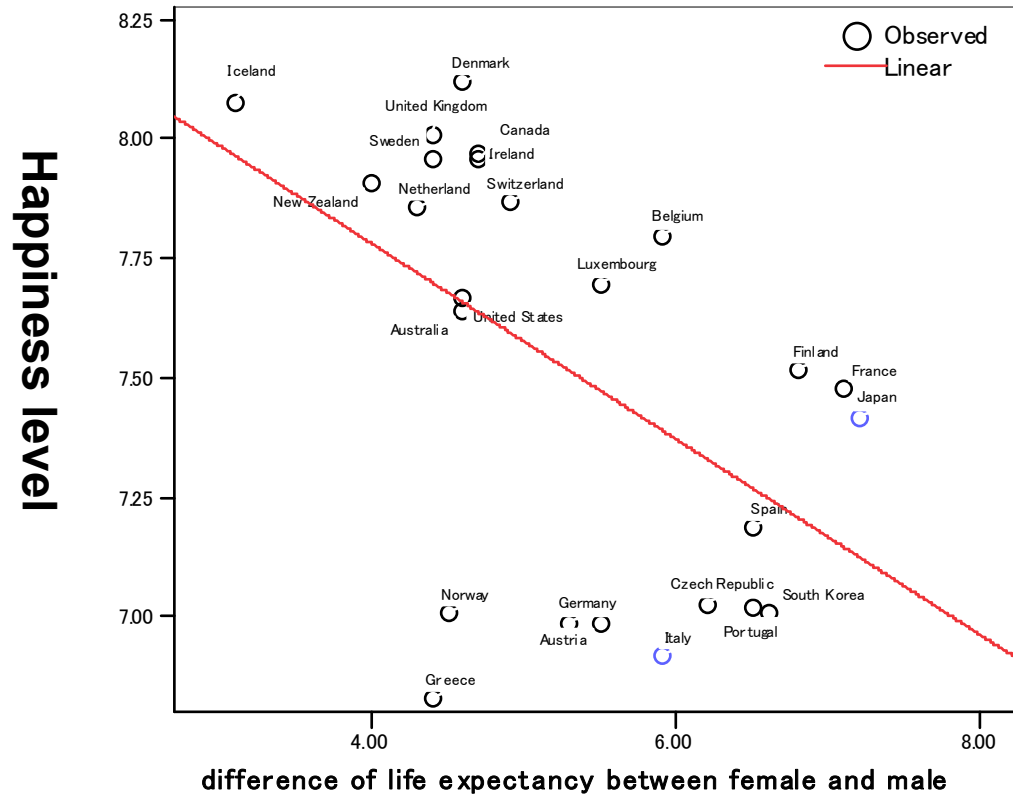
## Gaps in LE between male and female in OECD countries, 2008

Country	Gaps (year)	Order
Poland	8.4	1
Hungary	8.1	2
Slovakia	7.8	3
<b>Japan</b>	<b>7.2</b>	<b>4</b>
France	7.1	5
<b>Italy</b>	<b>5.9</b>	<b>12</b>
Switzerland	4.9	17
USA	4.6	23
Iceland	3.1	30

Source: OECD

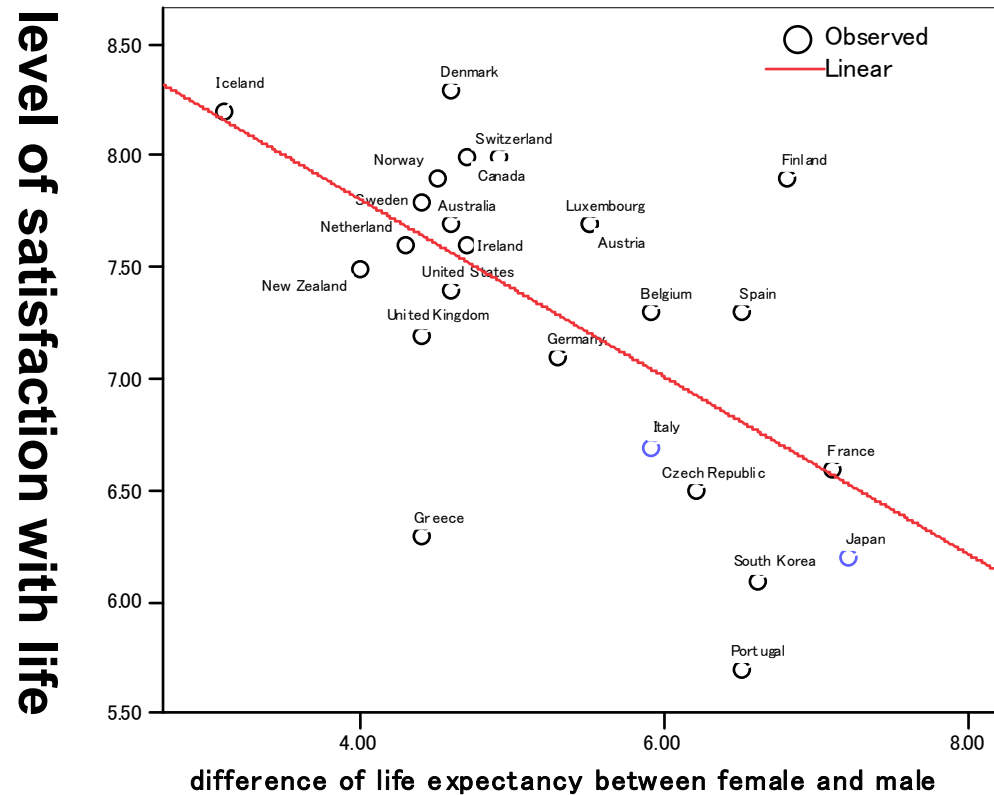
Kenya	0.8
Pakistan	0.6
Botswana	0.1
Afghanistan	-0.1

# Gaps in LE and Happiness, OECD



Equation	Model Summary					Parameter Estimates	
	R Square	F	df1	df2	Sig.	Constant	b1
Linear	.260	8.093	1	23	.009	8.604	-.205

# Gaps in LE and Life Satisfaction, OECD

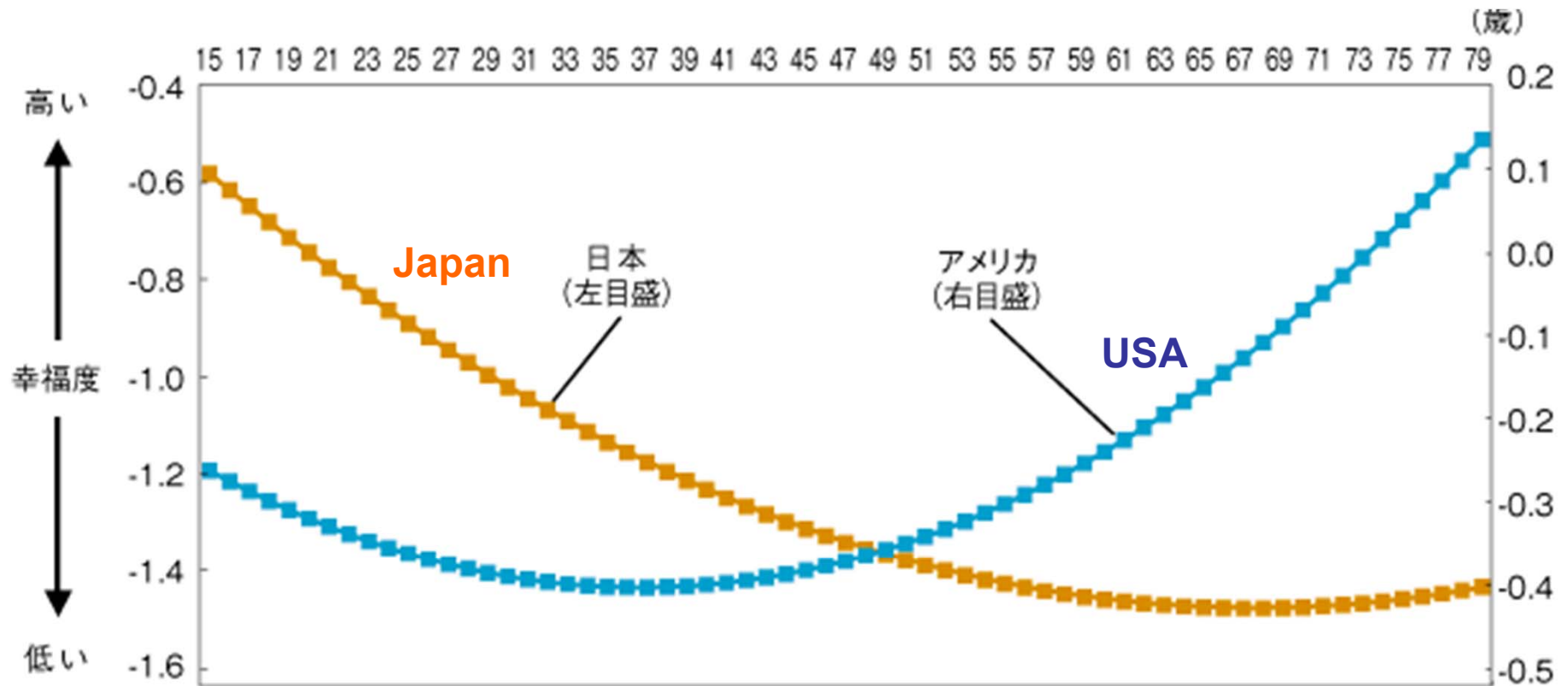


Equation	Model Summary					Parameter Estimates	
	R Square	F	df1	df2	Sig.	Constant	b1
Linear	.368	13.380	1	23	.001	9.402	-.399

# 国別生活満足度

Country	Satisfaction with Life	Order
Costa Rica	8.5	1
Denmark	8.3	2
Iceland	8.2	3
Switzerland	8.0	4
Canada	8.0	5
Norway	7.9	6
Finland	7.9	7
Mexico	7.9	8
Sweden	7.8	9
Panama	7.8	10
USA	7.4	20
Italy	6.7	41
Japan	6.2	59
Burundi	2.9	136
Zimbabwe	2.8	137
Togo	2.6	138

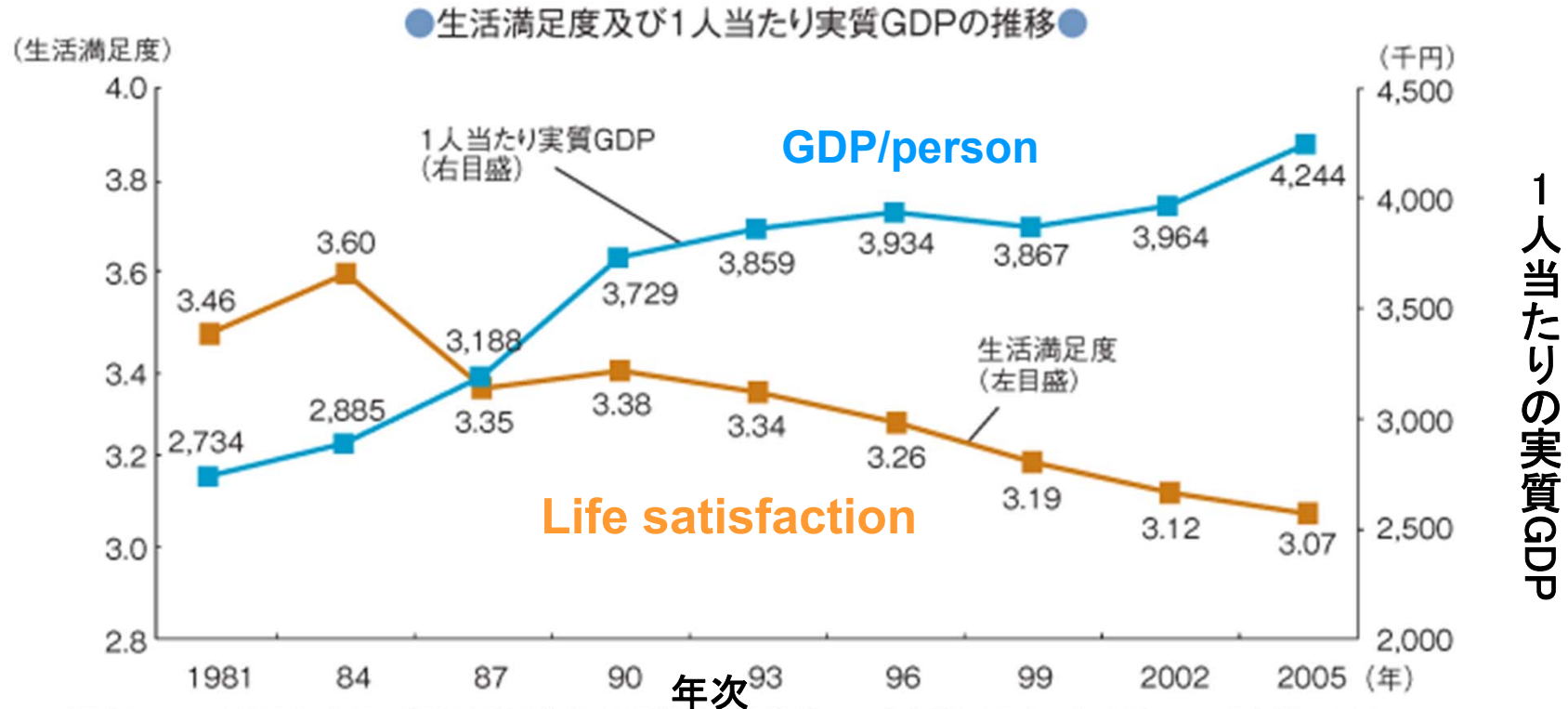
# 年齢別幸福度 ～日本と米国の比較～



(備考) 日本については、付注第1-3-1掲載の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。アメリカについては、David. G. Blanchflower, Andrew J. Oswald「Well-Being Over Time In Britain and the USA」掲載のTable4(1)の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。

出典：国民生活白書より、2008年

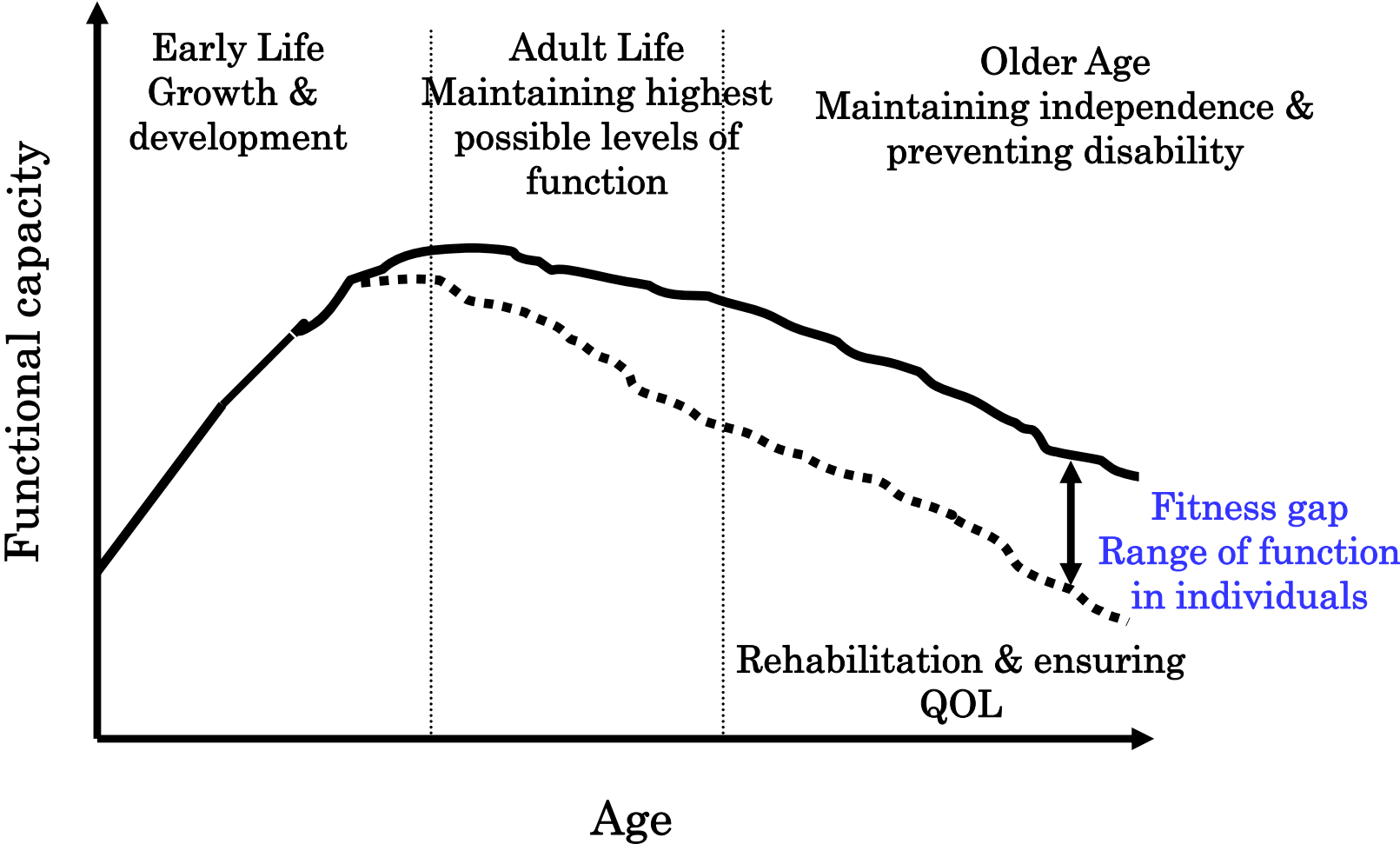
# 日本におけるGDPと生活満足度との関係



- (備考)
1. 内閣府「国民生活選好度調査」、「国民経済計算確報」(1993年以前は平成14年確報、1996年以後は平成18年確報)、総務省「人口推計」により作成。
  2. 「生活満足度」は「あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(○は一つ)」と尋ね、「満足している」から「不満である」までの5段階の回答に、「満足している」=5から「不満である」=1までの得点を与え、各項目ごとに回答者数で加重した平均得点を求め、満足度を指標化したもの。
  3. 回答者は、全国の15歳以上75歳未満の男女(「わからない」、「無回答」を除く)。

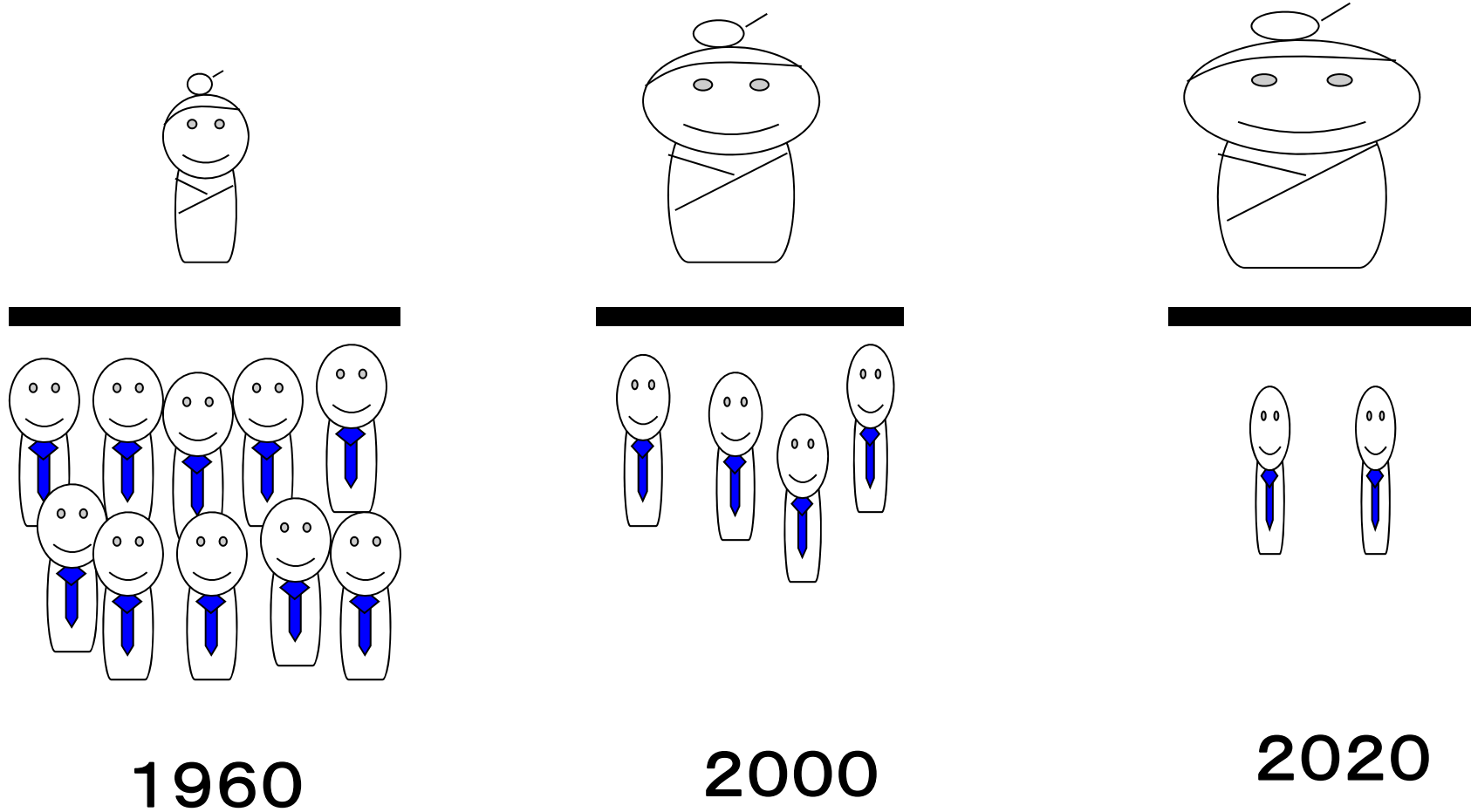
出典：国民生活白書より、2008年

# Functional Capacity across the Life Course

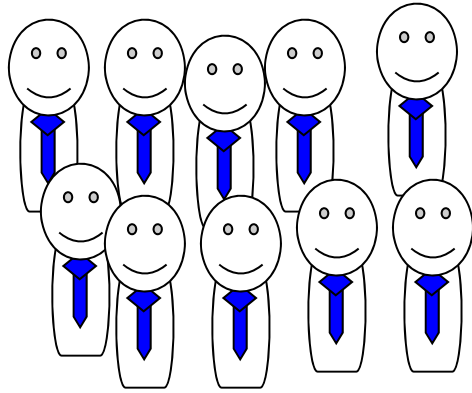


**“Not all functions are age-dependent!”**

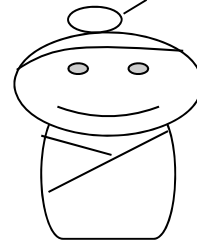
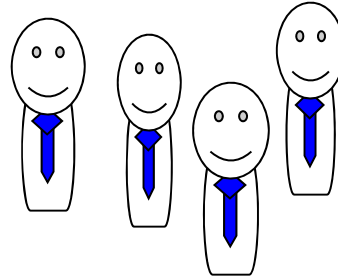
# 高齢化の変遷, 1960-2020



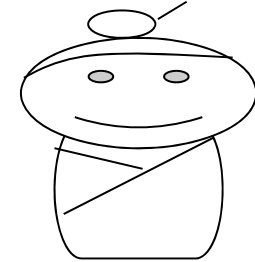
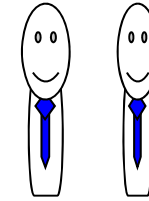
# 豊齡社会に向けて！



1960年



2000年

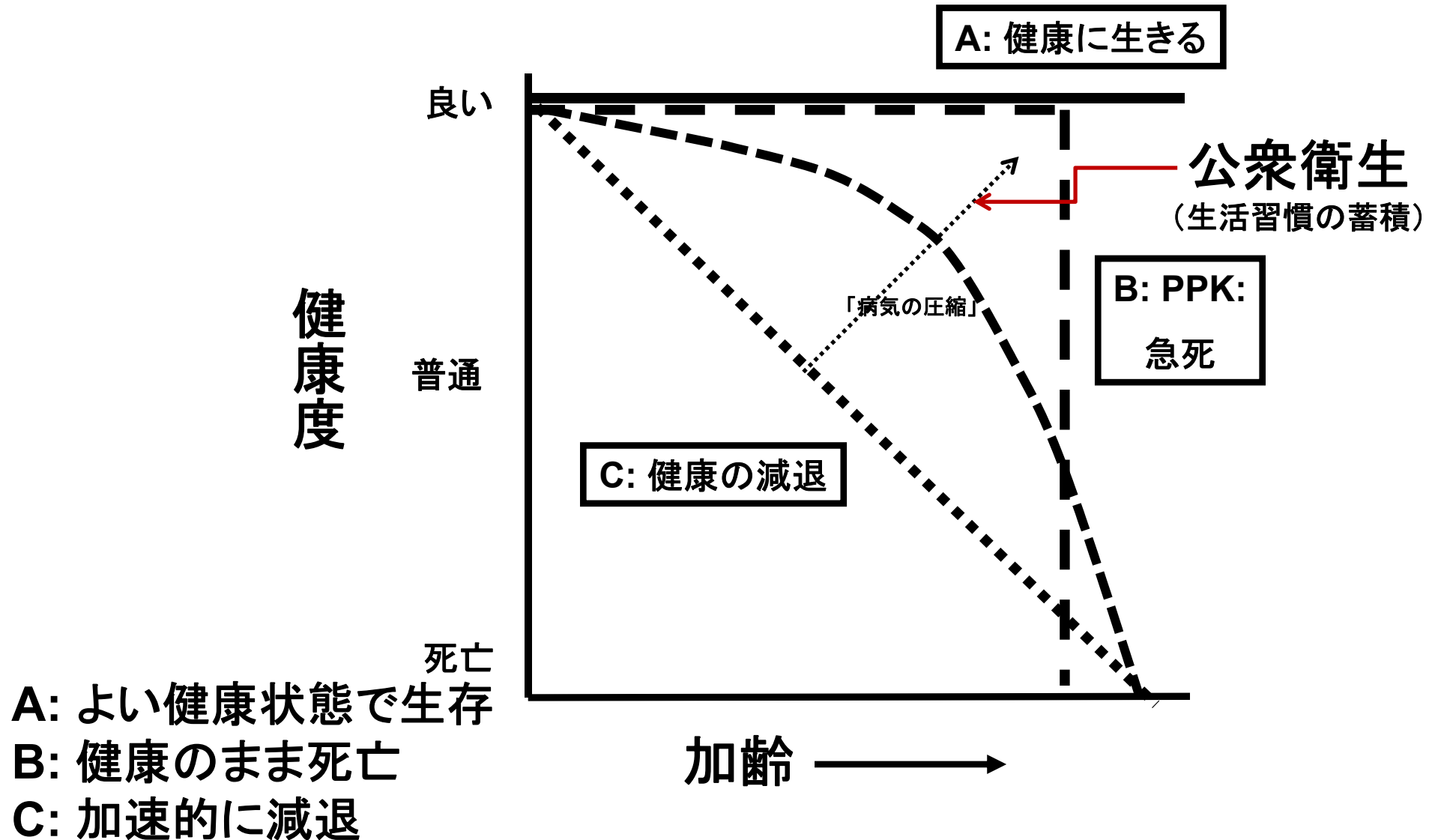


2020年

政治力も含む

高齢化の変遷, 1960-2020

# 加齢と健康曲線



# 高齢者のヘルス・プロモーション

## 年齢のせいしないで

- ソーシャルネットワーク・サポート
- ヘルス・プロモーション  
( 認識 → 行動 → 習慣化 → 個性 → 運命 )

**“Never Too Late”**

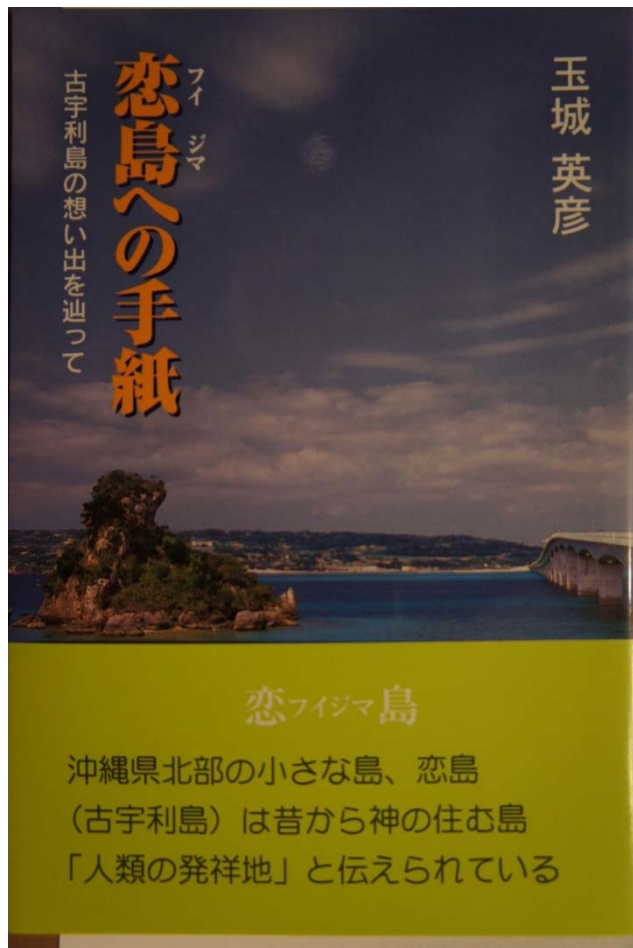
**決して遅いということはない！**

# 新幹線「ひかり」



「のぞみ」

ご清聴ありがとうございました！



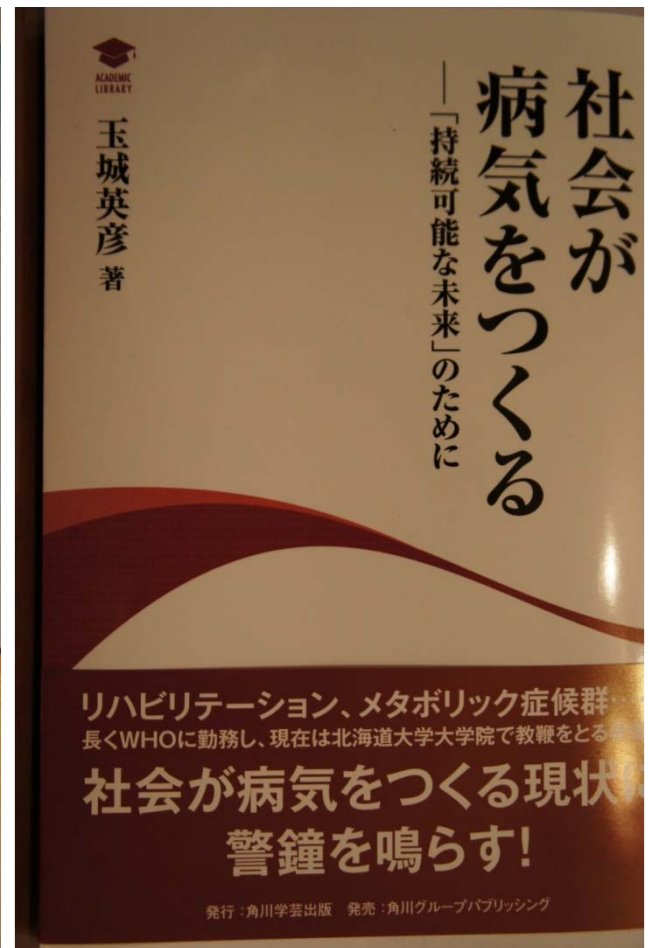
**恋島への手紙**  
～古宇利島の思い出  
を辿って～

新星出版、2007年



**世界へ翔ぶ**  
～国連機関をめざすあなたへ～

溪流社、2009年



**社会が病氣をつくる**  
～「持続可能な未来」のために～

岩波学芸出版社、2010年